

第55回織田幹雄記念国際陸上競技大会

開催日: 2021年4月29日(木祝)

場所: 広島・エディオンスタジアム

種目	名前	学年	記録	着順	備考
3000mSC	西出 優月	4年	10分18秒50	7位 (11名中)	
5000m	山岸 みなみ	2年	16分56秒60	40位 (46名中)	2組13位/18名

【山本コメント】

本大会は、先日の兵庫リレーカーニバルと同様、日本陸連が主催する日本グランプリシリーズの一環として開催される大会であり、世界陸連のワールドランキングにも反映される重要な大会である。本学から2名が出場資格を満たして出場した。昼過ぎまで雨天が続いたが、夕方には回復して、晴れの涼しい穏やかな気候になった。

小雨の中で開催された3000mSCに出場した西出は、今回は前半から積極的な戦略で挑み、前半から中盤にかけては先頭を引っ張る場面もあった。しかし4周目の水濤で転倒し、大きくタイムをロスしてしまい、順位も大きく下げた。それでも後半に盛り返し、7位まで順位を上げてフィニッシュした。西出のけがは大けがではなく、また他の選手を直接的に巻き込まなかったのは、不幸中の幸いだった。転倒は残念だったが、これまでにない挑戦的な走り最後まで気持ちを切らさずに走りきった価値は大きい。ぜひこれを今後のレースに活かしてほしい。夕方に開催された5000mに出場した山岸も、序盤から積極的な走りで進めていったが、中盤から後半にかけては苦しい走りになり、ペースダウンしてしまった。ただしその中でもぎりぎりのラインでペースの落ちを食い止め、何とか16分台でまとめたのはよかった。今シーズン初レースであった今回の走りをきっかけにして、より高いレベルを目指して頑張してほしい。

感染拡大が懸念される中、今大会は入念な感染予防対策が実施された上で、有観客で開催された。大会の様子を見ていて、選手たちがよい記録を目指して競い合いながら協力し合いながら懸命に頑張る姿、それを拍手で応援する観客の姿は、本来の陸上競技大会のイメージに近く、開催されて本当に良かったと思った。開催に向けて準備、運営面でご尽力いただいた方々、感染予防に協力した上で応援に駆けつけていただいた方々に感謝申し上げます。感染予防に対してすべての人が意識を高めながら、若者たちに必要な活動がなるべく制限されることのないように願います。